

召会生活のために次世代を育てるための特別集会

神のエコノミーにしたがって
子供と若者を顧みることにおける
極めて重要な要因

メッセージアウトライン

2021年8月

謝意

作者たちは、この資料を作成するにあたり、ウォッチマン・ニーとウィットネス・リーの務めに感謝の意を表したいと思います。彼らは神の言葉を聞き、わたしたちが入り込むことができるようにしてくださいました。さらに、作者たちは、主の回復の中の父母、若者と子供たちのためにこれらのアウトラインを準備するために、さまざまな引用を利用することを快く許可して下さったリビング・ストリーム・ミニストリーに感謝の意を表します。

聖書の引用聖句は、特に明記されていない限り、すべて回復訳聖書から引用されています。回復訳聖書は、カリフォルニア州アナハイムのリビング・ストリーム・ミニストリーから出版されています。

すべての務めの書物の読書箇所は、カリフォルニア州アナハイムのリビング・ストリーム・ミニストリーによって発行されたウォッチマン・ニーまたはウィットネス・リーの務めから取られています。許可を得て使用されるべきであり、無断転載を禁じます。

神のエコノミーにしたがって子供と若者を顧みることにおける極めて重要な要因

メッセージ 1

神のエコノミーのビジョンを見て、
わたしたちが神・人であることを認識して、神・人の生活をする

聖書： I テモテ 1:3-4. エペソ 3:9. ヨハネ 14:19 前半. ガラテヤ 2:20

I. 神のエコノミーのビジョンを見る—— I テモテ 1:3-4. エペソ 1:10. 3:9 :

- A. 神聖な、永遠のエコノミーは、ただ神ご自身の次にあります。
- B. 神のエコノミーの諸定義：
 - 1. エコノミーとは、物事を成し遂げるための案配です。
 - 2. 神のエコノミーは、神のご計画であって、それは彼ご自身を、彼の選ばれ、あらかじめ定められ、贖われた人々の中へと分与して、彼らの命、命の供給、またすべてとすることです—— II コリント 13:14。
 - 3. 神のエコノミーは、神が人と成り、人を命と性質において（しかし神格においてではなく）神とならせて、キリストの有機的なからだを生み出し、それが新エルサレムにおいて究極的に完成することです——エペソ 3:9. 4:16. 啓 21:2。
- C. 神の新約エコノミーは、手順を経た三一の神がわたしたちの中に造り込まれて、わたしたちの命また存在となることです——エペソ 3:17 前半. ガラテヤ 4:19。
- D. 神のエコノミーにおいて、神が意図しているのは、彼の民が彼ご自身を、手順を経て究極的に完成された三一の神として享受して、彼と一になることです—— I コリント 6:17。
- E. 神のエコノミーはわたしたちの協力を必要とします。神と協力するとは、キリストと共に縛られ、一つの命によって彼と一つの生活をするということです——ヨハネ 14:19 前半. 6:57。
- F. わたしたちは自分の繁栄、健康、家族のために祈り、神のエコノミーについて何も考えないことによって、神を横領するのではなく、神の心にしたがって、また神のエコノミーのために祈り、生活し、存在しなければなりません——エペソ 1:9-11。
- G. 神のエコノミーが神の民の間で遂行される時、彼らは祝福されます：
 - 1. わたしたちの福祉、幸福は、神のエコノミーを完成することに完全に結び付いています。わたしたちは、神のエコノミー以外の自分の幸福を求めるべきではありません——マタイ 6:33。
 - 2. わたしたちは自分のための繁栄を期待すべきではありません。そうではなく、わたしたちが期待すべきなのは、わたしたちを通して、主が彼のエコノミーを完成するためにできるだけ多くの事を行なうことです。
 - 3. 今日主があらゆる方法でわたしたちを祝福しているのは、彼のエコノミーを完成して、キリストのからだを建造するためです——エペソ 4:16。

II. わたしたちは神・人であることを認識して、神・人の生活をする——ヨハネ 1:12-13. I ヨハネ 3:2 :

- A. わたしたちが神・人であることを認識する：
 - 1. わたしたちがだれであるかを知り、認識することは、わたしたちを革命的に変えます—— II コリント 5:17。
 - 2. 神の再生された子供たちとして、わたしたちは命と性質において神であり、神と同じ種族に属し、神の「遺伝子」を持っています——ヨハネ 1:12-13. 3:3, 5-6. I ヨハネ 3:9。

3. もしわたしたちが、神の子供たちとして、命と性質において神であることを認識するなら、わたしたちは徹底的に変われるでしょう。わたしたちとかわりのある雰囲気とすべてもまた変われるでしょう—ヨハネ 1:12-13。
I ヨハネ 3:2。
 4. もし今日のすべてのクリスチャンが、彼らは命と性質において神であることを認識するなら、全世界は変わるでしょう。
 5. わたしたちは自分を神・人と考えるとき、このように考えることと認識することは、わたしたちを日ごとの経験において変革します。
- B. 神・人の生活をする：
1. わたしたちは、日常生活のすべての詳細において、神・人の生活をする必要を学びます—ピリピ 1:20-21 前半。
 2. 「わたしたちは家で、夫や妻に対して、また子供たちに対してキリストを生きているでしょうか？ わたしたちは、神・人となって、常に自分を否み、十字架につけられ、キリストを生きて神を表現するという真の復興を必要とします」（「歴代志上、下ライフスタディ」、メッセージ 11）。
 3. 「わたしたちはすべての事で、霊にしたがって歩く必要があります（ローマ 8:4）。わたしたちは、自分の言葉、行ない、表情、態度、霊、意図が、命を与える、調合された、すべてを含む霊によって清められているかどうか常に警告されて、注意している必要があるのです」（同書、メッセージ 7）。

正常な人の生活をするための原則と教訓

聖書：箴 1:7. 3:5-6. 30:5-6. 14:12. 16:25

I. 正常な人の生活をするための原則：

- A. 正常な人の生活をするための第一の原則は、神をあがめることです：
1. 神をあがめることは、あらゆることで神を顧慮し尊重し、彼がわたしたちを創造されたすばらしい神であることを覚えることです。
 2. 神をあがめることは、神を畏れることです：
 - a. エホバを畏れることは知識の初めです——箴 1:7. 9:10. 15:33 前半。
 - b. エホバを畏れることは、命の泉です——14:26-27。
 3. 神をあがめることは、神に信頼することです——3:5-8。
 4. 神をあがめることは、わたしたちが神を尊ぶことを意味します——9-10 節。
 5. 神の言葉はすべて精練されています——30:5-6：
 - a. わたしたちは彼の言葉に付け加えてはなりません。彼があなたを責め、あなたが偽り者とされないためです。
 - b. わたしたちは自分の観点にしたがって神の言葉に何かを加えることによって、それを変えてはなりません。
 6. 人の心は自分の道を計るが、エホバは人の歩みを導かれる——16:1, 9。
 7. 人の歩みは主によって定められます——20:24。
 8. エホバは心を量ります——21:2。
- B. 正常な人の生活をするための第二の原則は、知恵を必要とすることです：
1. 知恵を見いだす人は幸いです——3:13-18. 8:11。
 2. わたしたちは知恵をわたしたちの目から離すべきではなく、確かな知恵と分別を守るべきです——3:21-22。
- C. 正常な人の生活をするための第三の原則は、わたしたちの両親を敬うことです：
1. わたしたちは父の教訓を聞き、母の教えを捨てることをすべきではありません——1:8-9。
 2. わたしたちは父の言葉を受け入れ、彼の戒めをわたしたちの内に蓄えるべきです——2:1-6。
 3. わたしたちはわたしたちの父の教訓を忘れず、彼の戒めをわたしたちの心にとめるべきです——3:1-5, 11-12, 21-22。
 4. 賢い子は父を喜ばせ、愚かな子は母の悲しみです——10:1。
- D. 正常な人の生活をするために、わたしたちは結婚を尊ばなければなりません：
1. 結婚を尊ぶことで、男の忠信は基礎です——5:5-19。
 2. 女の美德は建て上げることです——11:16 前半. 12:4 前半. 14:1 前半. 31:10-31。

II. 正常な人の生活をするための教訓：

- A. 勤勉は怠惰に相対します——10:4-5. 12:24, 27. 18:9. 19:15, 24。
- B. へりくだりは高ぶりに相対します——10:19. 13:3. 14:23. 17:27 前半。
- C. 施しをすることは惜しむことに相対します——11:24-26。
- D. 唇を制することは言葉が多いことに相対します——10:19. 13:3. 14:23. 17:27 前半。
- E. 真実は虚偽に相対する——12:19, 22. 14:4。
- F. 怒りを抑えることは怒りやすいことに相対します——12:16. 14:29. 15:18. 16:32. 17:27 後半. 19:11, 19。

G. 命の路は死の道に相對します—14:12. 16:25。

III. 箴言を用いてわたしたちの新しい人を修養する：

- A. 「わたしたちは自己修養を拒絶し、天然の人を建て上げることを罪定めしなければなりません」（箴言ライフスタディ、第4編）。
- B. 「わたしたちはキリストにある信者として、もはや古い人ではありません。わたしたちは新しい人です。しかしながら、わたしたちはどれほど新しくても、依然としてわたしたちの人性を持っています。……わたしたちは依然として人性を持っているので、わたしたちの天然の人を養育するためではなく、わたしたちの再生された新しい人を養育するために正しい、靈的な格言を必要とします」（同書、第6編）。
- C. 「わたしたちはみな、わたしたちの新しい人を養育するために箴言を必要とします。わたしたちは、新しい人として、その靈と共にわたしたちの靈を活用して言葉と接触することによって、箴言に来る必要があります。そのとき箴言の言葉はわたしたちにとって靈と命となり、わたしたちの天然の人を養育するのではなく、わたしたちの再生された新しい人を養育するでしょう」（同書、第6編）。
- D. 「わたしたちは箴言を正しく用いるために、神のエコノミーを知らなければなりません。神のエコノミーとは、神が人と成ったのは人が神格においてではなく命と性質において神となり、三一の神の有機体、キリストのからだを生み出し、それが新エルサレムを究極的に完成するためであるということです」（同書、第8編）。
- E. 「今やわたしたちは、神のエコノミーにおける箴言の位置を見ることができません。神のエコノミーによれば、箴言は古い人を建て上げるのに用いられるべきではありません。金塊のような大きな格言や、宝石のような小さな格言は、わたしたちが自分の古い人を建て上げ、自己や天然の人を養育するためではありません。そうではなく、それらは、わたしたちが新しい人を建て上げるためです。この目的のために、それらは有益です。わたしたちは依然として体の中で生きているとき、どのようにしてそんなにも多くの面で正しく生きて、わたしたちの新しい人を建て上げるかについて、箴言がわたしたちに教えを与えることを必要とします」（同書、第8編）。

天の王国の実際と天の王国の実行の中で生きる

聖書：マタイ 5:3, 7-8, 10, 20. 16:18-19

I. 天の王国の実際の中で生きます：

- A. 主の回復において、わたしたちは外側のことを顧みるのではなく、内側の実際を顧みます—マタイ 15:1-17：
1. 神のエコノミーは外側の事柄ではありません。それは、内側でキリストがわたしたちの中へと来られる事柄です—Ⅱテモテ 4:22. エペソ 3:17 前半。
 2. 主は内側の実際を顧みるのであって、外側の現れを顧みるではありません—サムエル上 16:7。
- B. 王国の実際はキリストご自身です—ルカ 17:20-21：
1. わたしたちの霊に入るキリストは、王国を伴う王です。
 2. 王国はわたしたちの中にあるので、わたしたちは内に住んでいる王によって征服され、制御され、支配されます。
- C. 王国の実際の中で生きることは、天の支配の下で生きることです—ローマ 14:17：
1. 天の王国はわたしたちの霊の中に植えられます。
 2. 目に見えない何かが内側でわたしたちを制御し、わたしたちはこの制御の下で生きます。これが王国です。
- D. わたしたちが王国の実際の中によいとするなら、霊の中で貧しくなければなりません—マタイ 5:3：
1. 霊の中で貧しいことは、霊の中で空であることです。
 2. 霊の中で貧しいとき、心に高ぶりはありません。
- E. わたしたちが王国の実際の中によいとするなら、心は純粋でなければなりません—8 節：
1. 神に対して、わたしたちは心が純粋でなければならず、彼以外に何も求めてはなりません。
 2. 心が純粋であるとは、目的が単一であり、ただ一つの目標を持って神のみこころを達成して神に栄光を帰すことです。
- F. キリストをわたしたちの供給として食べることが、王国の民となって王国の実際の中で生きる道です—15:26-27, 37 前半：
1. わたしたちはキリストを食べることによって、彼を取り入れる必要があります。
 2. キリストは養う食物として、最高の清める要素です：
 - a. キリストが食物としてわたしたちの中へと来るとき、彼はわたしたちを養うだけでなく、内側でわたしたちを清めます。
 - b. わたしたちは主を、養う食物として享受しさえすれば、内側から清められます。
- G. わたしたちは天の王国の実際の中で生きたいなら、わたしたちの御父の隠された命によって生きることを学ばなければなりません—6:1-18：
1. 御父の命は享受、安息、慰め、満足の命です。
 2. 神の命の中には思い煩いはありません。ですから、神の子たちとして、わたしたちが持っている命は、思い煩いを知らない神聖な命です—25:34 節。
 3. わたしたちが最高の命によって生きるなら、最高の命の表現としての最高の道徳を持ちます—5:20。
- H. 王国の民が行なう事は何であれ、彼らの性質の表現です—48 節：

1. 彼らの活動、振る舞い、語ること、外側の行為は、彼らの神聖な命と性質の表現です。
 2. 彼らの内にあるものは、外側の振る舞いの中で表現されます—13-16 節。
 3. わたしたちの御父は、平和の命と性質を伴う平和の神であり、また彼から生まれた者として、わたしたちは彼の命の中で、彼の性質にしたがって振る舞うべきです—9 節。
- I. 王国の実際はおもに、義にかかっています—6, 10, 20 節：
1. 義は、わたしたちが内側で何であるかと関係があります。
 2. 義は、わたしたちの内なる存在の流れ出、わたしたちが内側で何であるかの表現です。
 3. 主観的な義は、わたしたちの義として生かし出される内住のキリストです—22:11-12. 13:43。
- J. 王国の民は御父のみこころを行ないます—7:21：
1. 王国の民は、他の何のためでもなく、御父のみこころを行なうためです。
 2. わたしたちは御父のみこころを行なうために、狭められた道、制限と制約に満ちた道を歩く必要があります—13-14 節。
- K. 王国の実際に関する基本的な考えは、わたしたちが自分自身に対して義にかなって厳格であり、他の人に対してあわれみ深く親切であり、神に対してひそかに純粋でなければならないということです—5:10, 7-8。

II. 天の王国の実行の中で生きます：

- A. 天の王国の実行は、今日の召会生活です—16:18-19. 18:17。
- B. 王国の民に対する天の支配は、彼らが他の人を顧みることを要求します—7:1-12. 18:10-14：
1. マタイ第 7 章 1 節から 12 節の主の意図は、わたしたち自身を忘れ、他の人を顧みるよう励ますことです。
 2. 他の人と接触することにおける王国の民の原則は、他の人を顧みることです。何を行なうにしても、わたしたちは他の人を考慮しなければなりません。
 3. わたしたちはただ自分自身の感覚にしたがって行動するべきではなく、他の人を顧みるべきです。
- C. わたしたちは天然の愛情を対処する必要があり、主以上に自分の親族を愛してはなりません—10:34-29。
- D. わたしたちは、外側の事柄を内側の方法で取り扱うことを学ぶ必要があります—15:21-28. 17:14-21。
- E. わたしたちが召会生活の中で、正しい方法で他の人と関係を持つようとするなら、わたしたちの誇りは対処されていなければなりません—18:1-3。
- F. 王国の実行の中で生きることは、わたしたちの怒り、特に性情の怒りを対処することを要求します—5:21-22。
- G. わたしたちは、他の人を心から赦す必要があります—18:21-35。
- H. わたしたちは、規則と支配の違いを見る必要があります—20:20-8。
- I. わたしたちは、いかなる種類のパン種も入り込まないように、警戒していなければなりません—13:33. 16:6, 11-12。
- J. 召会生活においてわたしたちは、主の人の生活の美德の結果であるいやしを経験しなければなりません—14:34-36：
1. このようないやされることは、ある人の腐敗した性格が変えられることです。
 2. 召会の民は、周りの人々をいやすことのできる美德を持つために、引き上げられたイエスの人性を生かし出さなければなりません：

- a. わたしたちは正常な召会生活を持ち、キリストによって生きるなら、彼の引き上げられた人性を生かし出します。
 - b. この種の生活には、周りの人々をいやす力を伴う美德があります。
- K. 王国の民には建造が必要です—16:18. 5:13-14 :
- 1. それは王国の民が塩と光となっている、団体の実体です—13-14 節前半。
 - 2. 丘の上にある町についての主の言葉は、個人のためではなく、高い段階で共に建造された団体の人々のためです—14 節後半：
 - a. 光は一つの実体として建造された団体の町であり、その周りの人々の上で輝きます。
 - b. 山の上に位置する輝く町になろうとするなら、わたしたちはその霊の一を保ち、一つの実体、団体のからだにとどまらなければなりません—エペソ 4:3-4。
 - c. わたしたちは建造されればされるほど、ますます輝く町となって、わたしたちの周りの人々を照らすでしょう。

メッセージ4
神聖な価値観を培う

聖書：マタイ 6:32-33. 16:26. ヘブル 11:24-26. ピリピ 3:7-8

- I. わたしたちは若者が価値の観念を変え、神聖な価値観を培うように助ける必要があります——ルカ 16:15 後半。
- II. もし、わたしたちが価値のないことを言わず、尊いことを言い出すなら、わたしたちは主の口のようになります——エレミヤ 15:19。
- III. 聖書は人の価値観の変化に関して多く語っています：
 - A. 「家を建てる者たちの捨てた石が、隅のかしら石になった」——詩 118:22：
 1. 「この方は、あなたがた、家を建てる者たちに捨てられ、隅のかしらになった石です」——使徒 4:11。
 2. 「人には捨てられたが、神には選ばれた尊い生ける石である主に来て」——I ペテロ 2:4。
 3. 「こういうわけで、信じるあなたがたには尊いものです」——7 節前半。
 - B. 「天の王国は、良い真珠を捜している商人のようなものである。非常に高価な一つの真珠を見つけると、彼は行って、持っているものをすべて売り払い、それを買った」——マタイ 13:45-46。
 - C. 「十字架の言は滅びつつある者には愚かですが、救われつつあるわたしたちには、神の力です」——I コリント 1:18。
 - D. 「天の王国は、畑に隠されている宝のようなものである。ある人がそれを見つけると、隠しておき、喜んで行って、持っているものをすべて売り払い、その畑を買う」——マタイ 13:44。
 - E. 「なぜなら、これらの物はすべて、異邦人が切に求めているからである。あなたがたの天の父は、これらの物がすべてあなたがたに必要であることを、ご存じなのである。むしろ、まず父の王国と父の義を求めなさい。そうすれば、これらの物はすべて、あなたがたに加えられる」——6:32-33。
 - F. 「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしくない。自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしくない」——10:37-38。
 - G. 「人が全世界を手に入れても、自分の魂の命を失ったなら、何の益があるだろうか？ 人は自分の魂の命と引き換えに、何を与えることができるだろうか？」——16:26。
 - H. 「あなたがたが知っているように、異邦人の支配者たちは人々の上に君臨し、偉大な者たちは人々の上に權威を振るっている。しかし、あなたがたの間では、そうであってはいけない。だれでも、あなたがたの間で偉大でありたい者は、あなたがたのしもべとなり、あなたがたの間で第一になりたい者は、あなたがたの奴隷となちなさい」——20:25-27。
 - I. 「信仰によって、モーセは成人した時、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、罪のはかない享樂にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選び、キリストのそしりを、エジプトの財宝にまさる富と考えました。それは、彼が褒賞をひたすら望んでいたからです」——ヘブル 11:24-26。
 - J. 「しかし、わたしにとって益であった事柄を、わたしはキリストのゆえに、損失と勘定するようになりました。しかしさらに、わたしはまた、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の卓越性のゆえに、すべての事を損失であると勘定します。その方のゆえに、わたしはすべての事で損失を被りましたが、それら

をちりあくたと勘定します。それは、わたしがキリストを獲得するためであり」
—ピリピ 3:7-8。

- K. 「あなたがたの飾りは、髪を編んだり、金を身につけたり、衣をまとったりする外面的なものではなく、むしろ、柔和で穏やかな霊を朽ちない飾りとする、心の中の隠れた人です。これこそ、神の御前に極めて価値のあるものです」
— I ペテロ 3:3-4。
- L. 「知恵を得ることは金を得ることよりも何と良いことか、英知を得ることは銀を得ることよりも望ましい」—箴 16:16。
- M. 「あなたの口の律法は、わたしにとって幾千の金や銀にもまさるのです」—詩 119:72。
- N. 「それゆえ、わたしは金よりも、また精金よりも、あなたの戒めを愛します」
—127 節。
- O. 「わたしは彼の口の言葉を、わたしの割り当てられた食物よりも尊んだ」—ヨブ 23:12 後半。
- P. 「全能者に立ち返るなら、あなたは建てられる。もしあなたが自分の天幕から不正を遠ざけ、あなたの金塊をちりの中に置き、オフルの金を川の石の中に置くなれば、全能者はあなたの金塊となり、尊い銀はあなたのものとなる。そして、あなたは全能者にあって喜び、神に向かってあなたの顔を上げる。あなたが彼に祈れば、彼はあなたに聞かれ、あなたは自分の誓願を果たすことができる。あなたが事を決めると、それはあなたに実現し、あなたの道の上には光が輝く」
—22:23-28。

メッセージ5

その霊へとまき、主の祝福を待ち望み、常にささげる生活をする

聖書：ガラテヤ 6:7-9. ローマ 12:2. 14:7-8. IIコリント 5:14-15. マタイ 14:19-21

I. その霊へとまく——ガラテヤ 6:7-8：

- A. まくことは、成長して最終的に刈り取るものをまくことです。
- B. わたしたちはまいたものを常に刈り取ります：
 - 1. もしわたしたちが肉へとまくなら、肉から腐敗を刈り取ります——8 節前半。
 - 2. もしわたしたちがその霊へとまくなら、その霊から永遠の命を刈り取ります——8 節後半。
 - 3. これら二種類のまくことと、これら二種類の刈り取りしかありません。中立はなく、また第三の種類の刈り取りはありません。
 - 4. 原則として、わたしたちが言ったり、行なったりすることはすべて、肉へとまかれた種であるか、あるいは、その霊へとまかれた種であるかのどちらかです。
- C. クリスマン生活はまく生活です：
 - 1. わたしたちが行なうあらゆることは、ある種類のまくことです。すなわち、それは肉へとまくことであるか、あるいはその霊へとまくことであるかのどちらかです。
 - 2. わたしたちはどこにいても、また何を行なっている、種をまいているのです。
- D. わたしたちが自分の子供たちに言ったり、自分の子供たちと共に行なったりするあらゆることは、子供たちへとまかれた種です。
- E. わたしたちは召会生活において、常に小さな種をまいています。
- F. わたしたちがまくことにおいて注意深くあることは、わたしたちの生活に関して目を覚ましていることです。

II. 主の祝福を待ち望む——マタイ 14:19-21：

- A. わたしたちはみな、あらゆるものが主の祝福にかかっていることを認識するという点にまで、また主を仰ぎ望み主の祝福を求めるという点にまでもたらされる必要があります。
- B. 主に仕えることにおいて、わたしたちは主の祝福を信じ、主の祝福を待ち望むべきです。
- C. 主の祝福の下にすることが意味しているのは、主がわたしたちの奉仕において、起こり得ない結果、すなわち、因果関係のない結果、わたしたちが待ち望んでいることをはるかに超える結果を与えてくださるということです。
- D. わたしたちは主の祝福を妨げないように生きることを学ぶ必要があります。
- E. わたしたちの奉仕の将来は、わたしたちが正しくあることにかかっているのではなく、主の祝福にかかっています。
- F. わたしたちが主にもたらすものは何であれ、さかれて（砕かれて）、他の人の祝福とならなければなりません——マタイ 14:19：
 - 1. 「主は彼にささげられるものは何であれ、さかれます。これは、わたしたちが自分を主にささげた後、主にさかれることを意味します」（マタイによる福音書ライフスタディ、第 43 編）。
 - 2. 「あなたが何であっても、何を持っていても、主にささげられなければなりません。あなたがそうするなら、主の御手の中で何も無傷のままではないでしょう。むしろ、すべてはさかれるでしょう。主は、ご自分の御手に

置かれるものをすべてさかれます。もしさかれないなら、わたしたちの献身（ささげること）には何の意味もなく、何の効果もありません。わたしたちの献身は主によってさかれてこそ、役に立つのです」（同書、第 43 編）。

3. 「疑いもなく、この国での主の回復に大きな祝福がありました。それにもかかわらず、何人かの愛する人たちが自分を主にささげたことを、わたしたちは認識しなければなりません。主の御手の中で、彼らはみなさかれ、さかれたものが祝福をもたらしました（同書、第 43 編）。

III. 常にささげる生活をする——ローマ 12:2 :

- A. ささげることの定義：神がわたしたちの中で、またわたしたちの上で働くことに、神がわたしたちを用いることに、神がわたしたちの道を方向づけることに、わたしたちが同意すること。
- B. ささげることの各面：
 1. ささげることの根拠——神が買い取られた—— I コリント 6:19-20. ローマ 14:8。
 2. ささげることの動機——神の愛—— II コリント 5:14-15. ローマ 12:1。
 3. ささげることの意義——犠牲となる——ローマ 12:1. 民 28:2-3。
 4. ささげることの目的——神によって用いられること——神のために働くこと——エペソ 2:10。
 5. ささげることの結果——わたしたちの将来を放棄すること——レビ 1:9。
- C. 自分自身をささげる力は、神の現れと神の啓示を通してやって来ます——創 12:7. 使徒 9:6。
- D. ささげることの経験——マタイ 7:13-14 :
 1. ささげるといふ重大な事。
 2. ささげることの過程。
 3. ささげることので絶対的である。
 4. ささげることの喜び——詩 43:4 前半. 40:8 前半。
 5. ささげることの安息——マタイ 11:29-30。